

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	407001401		
法人名	有限会社 セブレコーポレーション		
事業所名	グループホーム おおさかの里		
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡みやこ町犀川大坂646-1		(電 話) 0930-42-0801
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	2007年6月8日	評価確定日	2007年7月2日

【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷 金	0 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(6 月 8 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	3 名
年齢 平均	85.8 歳	最低	75 歳
		最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉永病院、医療法人 小波瀬病院、よしなが歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今川沿いの道を右折し、正面に大坂山が見える緑あふれる自然環境の中に、グループホームおおさかの里がある。畑に隣接し、広い敷地の木造平屋建て玄関を入ると、じゃがいも堀に出かけようとするにぎやかな利用者の笑顔が見える。[のんびり、ゆっくり、みんなで]を理念の柱とし、「利用者の生活と人生を尊重し、心を大切に、その方らしく暮らせるお手伝いをする」というオーナーの方針を管理者、全職員が理解し、日々努力している。職員の中に看護師3名、準看護師1名の常勤者で、緊急体制やターミナルケアの指針を作成し医療機関や利用者、家族と協力し、安全で安心して暮らせるホームとして、地域からも信頼されている開設1年目のグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年目で初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価の重要性を認識し、全職員に自己評価票を配布し、記入してもらい、それを全員で取りまとめ、自己評価票を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、町役場職員、区長、民生委員、家族会が参加して行われている。最初は町からの要望や情報が多かったが、最近は家族会からの要望などが増え、それをホームと行政が答えたり、宿題として持ち帰ったりし、意見交換の内容が充実してきている。今後は外に向けて、「認知症」の理解と啓発に努め、地域の中に根付いたホームを目指し、利用者や家族だけではなく、地域からも信頼されるグループホームとして、努力されることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口、相談員、連絡先を玄関や契約書に明示し、意見箱を玄関に設置しているが、うまく活用できていない。運営推進会議の後、家族だけで話合いの場を持ってもらい、少しずつ要望が出てきている。今後は個別の要望が気楽に出来る雰囲気での意見が運営や利用者に反映するように努力されることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	住居が少ない地域であるが、職員の一人は隣に住んでいて、近所に2名の看護師さんが住み、緊急の時は協力してもらえる体制がある。利用者や職員は地域の神幸祭や盆踊りに参加したり、保育園児の慰問や小学校の職場体験など、活発な交流が行われ、地域にとけ込み、地域と友好関係を一日も早く築こうという姿勢が伺える。今後は公民館や行政と協働し、地域密着型グループホームとして、努力していくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり、ゆっくり、みんなで」を理念に掲げ、見やすいところに掲示している。「みんなで」とは入居者も、職員も地域の中で一緒にという意味で、一緒にゆったりと暮らしていくことを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を自分の中に取り込み実践につなげている。月1回の会議時や申し送り時に話し、唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人会には加入していないが、保育園児の訪問、小学校の職場体験、地域のお祭りへの参加、ホームのクリスマス会への地域の方の参加など地元の人との交流がある。開設して一年、徐々に地域の方にも理解してもらっている。		オーナーが地域に住んでいても、地域に溶け込むことは時間がかかる。徐々に、無理をせず、町内会や、老人会、地域の行事に参加することが望まれる。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回の評価である。評価表を職員全員に配布し、職員会議を開き意見を出し合い、実施の異議を理解し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開いている。参加者は、町役場の介護課職員、区長、民生委員、家族、利用者で、活発な意見交換が行われ運営に反映させている。次回の運営推進会議に外部評価結果を報告し話し合いを持つ予定である。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、町の役場から相談員の来訪がある。今回の外部評価の結果を町役場に届けることにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>行政との連携は出来ているが、研修会への参加や相談窓口、パンフレットの設置がない。</p>		<p>研修会への参加や、ホーム内研修を充実し、必要な人への説明や支援が出来るような体制が望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のホームだよりの送付、病院受診の報告、金銭出納の報告を行っている。又家族の訪問時に日頃の様子を話している。</p>		<p>金銭出納簿に家族のサイン、又は捺印が望まれる。</p>
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が結成されている。運営推進会議の後や、ホームの行事の後に、家族会会議を開催し意見が出され運営に反映している。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設後、1名の職員の離職があった。離職時は、確実な引継ぎが行われた。利用者への説明により利用者へのダメージを防いだ。離職した職員は、行事のときなど参加し交流が続いている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>ハローワークや求人情報により募集を行っている。男女の区別、年齢制限などはない。現在60歳以上の職員もいる。資格取得や、社会参加も積極的にバックアップしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>1市2町のグループホーム連絡協議会で研修会を開催し、人権研修に取り組んでいる。ミーティングの時、管理者が人権の尊厳についての話をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加し伝達講習を行っている。研修に参加できなかった職員へ資料の整備が望まれる。</p>		<p>内部又は外部研修の年間計画を立て、計画に沿ったローテーションを組み、職員が参加しやすい環境を整えることが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム協議会、介護支援専門員協議会へ参加しサービスの向上に努めている。相互訪問等の活動は取組んでいない。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学、体験入居を行っている。ホームの雰囲気に馴染んでもらい、利用者や家族が納得し入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に「みんなで」と掲げている、利用者と職員が一緒に暮らし喜びや悲しみを共有し、利用者から学んだり、応援されたりの関係が築かれている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりを職員が受け持ち、本人の意向や思いを把握している。職員は見守りながら、利用者の積極的な意思の表出が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き、担当者会議で意見を出し合い作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回担当者会議で話し合い、変化があれば見直しをしている。介護計画期間に応じた見直しも行って		担当者会議で話し合われているが、個々のケアプランに評価項目を設け、見直しを行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	なじみの理・美容院の送迎、医療機関の受診、家族の宿泊支援など無料で実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームの協力医療機関との連携は出来ている。往診も受けられる。ターミナルケアについての話し合いを持っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期にも対応できる。協力医療機関とも話し合いも持ち「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用者の希望があれば対応する。職員に医療専門職が4名おり心強い。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書、運営規定に秘密保護を掲げ、プライバシーを損なうような支援はなされていない。オムツ交換もさりげなく居室で行われている。		個人情報保護法の成立により、個人情報の利用目的や指針の作成も望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、その日の状況や、入居者の希望により柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、時には利用者から教わりながら一緒に料理し、同じテーブルに着き、楽しみながらの食事である。訪問時も、ホームそばの畑で職員と楽しそうにじゃがいもを掘っていて、昼食はじゃがいも料理であった。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は自由である。いつでも入浴できる体制になっていて、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なこと、出来ることをお願いしている。洗濯物たたみ、食事作り、農業の経験を持つ利用者は草取りなど、自然と役割が出来ていて、楽しみながら過ごせるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて散歩や、ドライブを兼ねた買い物、時には周りの広場を利用しての外での食事などホームの外で過ごせるような支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はしていないが、玄関から利用者が外出するときのセンサーは取り付けられている。職員が外出の気配を察知して対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署と防災訓練を行っている。ホームの周りが広い空間であり避難場所となっている。住宅の少ない地域の中で、そのうちの1軒は職員の家であり昼夜とわず協力が得られている。又オーナーが町の消防団員で心強い。避難経路は4箇所、夜間を想定した訓練もっている。		地域住民参加の防災訓練の実施と職員全員が救急救命訓練を受けることが望まれる。
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量も記録され職員は情報を共有している。管理栄養士はいない。献立は入居者の希望を聞いて取り入れており、カロリー計算もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居間に、南に向けたウッドデッキ、広い庭、それに続く緑の小高い山が居心地の良い空間を作りだしている。ウッドデッキや広い庭に置かれたベンチは利用者にとって一人になれる空間となっている。季節感あふれる山の幸や畑で取れた季節の野菜を食事に取り入れ、食事時の快い音楽も居心地の良い空間作りとなっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具が持ち込まれ、家族の写真、仏壇など利用者が安心して生活できる配慮がなされている。		